

父母の会ニュース

神戸市重度心身障害児(者)父母の会

第200号

発行: 令和2年1月25日

責任者: 武田 純子

T E L: 078-335-8508

F A X: 078-335-8509

U R L: kobe-jyushin.com

E-mail: hubonokai6530

@iaa.itkeeper.ne.jp

200号記念特集号

福祉の原点は障害者問題と人権問題

(公財) 神戸国際協力交流センター

理事長 矢田 立郎

(前神戸市長)



宮崎市長が掲げられた“最小市民負担で極大市民福祉”を追及する重点施策を担う民生局庶務課長に 1986 年に赴任、初めて福祉を経験する。職員が 2,700 人余、出先の施設として、障害児者、高齢者、こども等があり民生児童委員、各種団体と多岐とわたっていた。上司から福祉を良く理解するために、市域外の障害児者施設を詳細に学ぶ様といわれた。当時市内には、重度重複障害児者施設はなく、他県市に世話になっていた。武庫川にある砂子療育園を訪問、同園の事務局長が対応していただいたが、神戸は自前で施設を作らず他県市等の施設に頼っている。聞くところによれば、施設に入れない場合、家に座敷牢の様なものを作り、閉じ込めているという。これは大きな問題だと言われた後に施設を案内して頂き、医療行為を伴った施設の必要性を痛感した。この出来事は、私の頭の中にこびりついていた。その後 1997 年に保健福祉局長に就任、福祉、医療、介護等を所管する 5,500 人余を保有する大組織であった。

1989 年に“しあわせの村”が開村、他に例を見ないものである。局長在任中、古田加代子氏（初代理事長）から神戸市に福祉に充てて欲しいと 4 億円の巨額の寄付を頂いた。私の頭の中にこびりついていた重度重複障害児者の施設を建設したいと当時の笹山市長に相談し、建設が進められた“にこにこハウス”である。重心の父母の会の手により各区に支部が置かれ、運営が広がっている。

時代の変化とともに新たな取り組みが進むことを願っている。



あけましておめでとうございます



輝かしい令和の元号になって初めての新年を迎えました。
加えて当会の「父母の会ニュース」発行 200 号となります。
今日に至るまでの歴代の広報委員は、会員や協力いただいている団体に情報を、いち早くお届けすべくその時々に応じた内容に頭を悩ませながら、且つ社会の動きも織り込みつつ、悪戦苦闘(現在もですが・・・)して今日に至っております。

若手の広報委員の手助けも得られ、「父母の会ニュース」をもっと広域に知っていただくために、昨年ホームページがようやく完成しました。と共に、「父母の会ニュース」も昭和の時代から令和の時代に相応しく、内も外も変革していかねばと努力しております。

これを機に読みやすい紙面にしました。

この度は、200 号記念としまして、以前から見守っていただいております前市長・矢田立郎様にもご協力をいただきました。

これまで以上に皆さまのご支援とご協力をお願い申し上げ、今年度も明るい年になりますよう祈念いたします。

会長 武田 純子

「第 1 号父母の会ニュース」を発行して 50 年。昭和、平成を経て令和を迎えました。50 年の歩みの中心は重度心身障害児者の生活向上を願う親の真剣な活動の報告をすることでした。

生命の尊厳、基本的人権、人間平等を根幹にした私たちの活動は人への思いやり、親同志の団結、自助努力を生みだした活動と言えます。どんな時代になっても重度の障害を持った人達の代弁者となり、社会の一員として生活が出来得る環境作りに私達の組織は必要です。

これからも全員力を合わせて社会の底力となり得る組織であり、活動を通して社会に報告の出来る重心父母の会であると思っています。



前会長 池田 希美枝



「父母の会ニュース」が創刊 200 号を迎えました。創刊第 1 号(B4 版 1 枚もの)を発行したのは昭和 48(1973)年 11 月 30 日でした。当時の題字は「じゅうしんニュース」でしたが、昭和 52(1977)年 3 月 7 日発行から「父母の会ニュース」に改題して今日に至っています。創刊以来、46 年にわたり父母の会の活動状況などを伝えてきました。父母の会の歴史を記録する貴重な機関紙です。

震災の年の平成 7(1995)年 2 月と平成 8(1996)年 3 月には震災特集号を発行し、震災復興を願って会員の皆さんの声を掲載しました。これからも 250 号、300 号と続くことを願っています。

元広報委員 中新井 兵吾

「200号発行に寄せて」

新たな年となり、「父母の会ニュース」が200号を迎えられますことに心からお祝いを申し上げます。

神戸市重度心身障害児(者)父母の会会員のみなさまのご活躍の様子や支部ごとの特徴ある取り組みの紹介など、毎回楽しく拝読させていただいています。

今日まで50年近く発行を続けてこれ、多くの障害のある方やご家族を勇気づけ、仲間との喜びを分かち合っただけでなく、これからの「じゅうしん父母の会」のますますのご発展を期待しています。



神戸市保健福祉局障害福祉部
担当部長 檜原 伴子 氏

「矢田保健福祉局長に教えられたこと」

障がいに関する事で、矢田局長との出会いで教えられたことがあります。それは、市役所で初めて障がい分野を担当した時、丁度矢田局長が保健福祉局長に就任された時でした。就任直ぐに、砂子療育園に同行させて頂いたことがきっかけとなり、重症児施設を考えることになったこと。また、送別会の時に障がい者が主役となる場があるとわれ、後に「個性とハートの祭典」を提案し、今も形が変わっても続けられています。これからも、機会があれば、障がい児者中心で活躍できるような場を創っていきたくと考えております。

医療法人 社団 まほし会 真星病院
理事長補佐 横田 治郎 氏
(元神戸市保健福祉局障害福祉部)

「継続は力」



機関紙200号発行おめでとうございます。
この機関紙が社会に果たした役割は計り知れないものがあります。
市民に対し障害者の情報発信、会員に会の活動等の発信を、粘り強く、継続されたことです。

私は昭和45年に障害児施設でお世話になり、50年の月日が経ちました。この間、国際障害者年、マスコミに障害者問題が取り上げられ、一定の障害者理解が深まりましたが未だに障害者差別・偏見が残る社会に、障害者の正しい理解のための啓発活動が必要です。そのためにも、機関紙の継続を続けられることを期待しています。

「心のバリアフリー」、「ノーマライゼーション」の社会実現のため！

元神戸市立心身障害者福祉センター所長
寺本 勉彦 氏

父母の会ニュース 200 号おめでとうございます。編集に参加させていただけた事光栄に思います。思いおこせば、経験のない私が務まるかなと思いましたが、みなさんに助けられ良いメンバーにも恵まれ、毎回楽しみながら心込めて作り上げることができました。とてもなつかしく大切な思い出になりました。みなさんありがとうございました。

これからも父母の会ニュースがずっと皆さんへ情報を発信していただける事を心から願っています。

前広報部 由良 雅子

私たち親子が「じゅうしん父母の会」に入会した時には、すでに「父母の会ニュース」があり、それを当たり前のように目を通していました。他支部の活動記事を参考にしたり、障害(児)者についての行政の取り組みなどを興味深く読ませてもらっています。

「父母の会ニュース」が 200 号になるとの事。各方面への記事の募集、それらをまとめ誰にも読みやすく、見やすくするために代々の広報委員さんの努力があり現在に至っていると思います。ありがたいです。

長田支部 時本 清子

「父母の会ニュース」200 号発行を心よりお祝い申し上げます。

会長挨拶のコーナーでは発信しておられる障害児者に係る制度の動向や取組等その他色々な情報を得てきました。私たちが切に願っている事を要望書として、毎年市に伝えて下さっている記事を読むと希望や期待、そして守られていると云う安心感を与えて貰って感謝しています。

父母の会も会員が高齢になり、広報部もその問題に直面しているとの事でしたが、入会と同時に広報部に自ら志願し、子供達の為に頑張りたいと意欲を燃やす若いお母さんもおられます。先輩方と協力して good なニュースを届けて頂けるのを楽しみにしています。

養護学校の先生方や、ボランティアの方々に支えられて 40 年以上続いている「ポニー教室」と「父母の会ニュース」の長寿を願います。

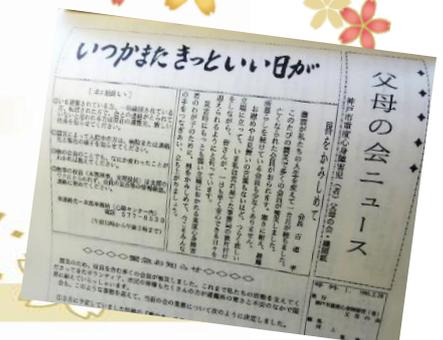
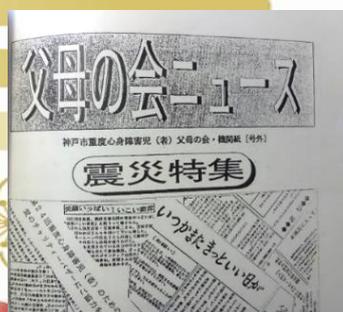
垂水支部 大住 啓子

父母の会ニュースの過去のファイルを紐解くと平成 24 年の 173 号から引き継いでいます。力不足を申し訳なく思いながら、200 号まで続けて来られたのは、原稿のお願いを快く引き受けて下さった皆様のご協力によるものと心より深く感謝申し上げます。今後ともお力添えのほどよろしく願っています。

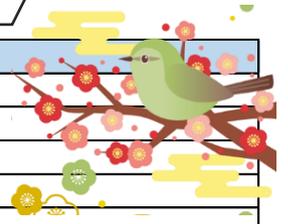
広報部長 新川 由美子



第1号



じゅうしん父母の会のあゆみ



会長	年	月	主 な 事 項	
小田切 清美 (42～55)	昭	37	9	発足
		38		巡回相談(歯科療育)家庭訪問から開始
		40		葺合療育相談グループ(のちのポニー教室)活動開始
		40	4	連合組織となる
		41	9	神戸市障害者保険扶養制度発足
		42	4	「神戸市重度心身障害児(者)父母の会」統一組織となる 各区会を支部に変更
		46	9	東部いこいの家開所(灘区) H8年3月閉鎖
		46	10	中部いこいの家開所(父母の会本部事務所を設置)
		47	8	第1回チャリティーバザー(東部いこいの家)
		48	11	父母の会ニュース第1号発刊
	和	48		巡回相談・歯科相談・療育相談 開始
		49		北支部誕生(兵庫区北神地区が北区となる)
		49	11	「ポニー教室」誕生
		52		「昼間一時保護」開始(中部いこいの家)
		52	6	中部いこいの家が心身障害福祉センターに移転
		52	12	クリスマス会開催(59年以後支部ごとに実施)
		53	3	「たかとり号」寄贈を受ける
		53	8	菅原洋一チャリティーコンサート
		53	10	心身障害福祉センター歯科診療所開所 (市への積極的な運動を展開して)
		54	4	リフト付き福祉バス「おおぞら号」の運営を神戸市より受託
内田 幸夫 (56～58)	54	7	西部いこいの家開所(垂水区) H10年10月閉鎖	
	55	3	24時間テレビチャリティーより リフト付き車「きくすい号」寄贈を受ける	
	56	10	昼間一時保護開始(東部いこいの家)	
	56		中央支部誕生(葺合区・生田区合併)	
	57	9	西支部誕生(垂水区西神地区が西区となる)	
	58	5	神戸まつり協賛バザー初参加	
	59	4	西部いこいの家で生活指導事業「星陵園」開始	
	61	9	20周年記念行事「歌謡コンサート」神戸国際会館	
	62	4	社会福祉法人 明輪会設立「ワークホーム明友」開設	
	百道 孝 (S59～H15)	平	2	10
2			11	健康福祉フェアバザー初参加
3			11	第1回じゅうしんまつり開催～12年10月第10回まで
5			5	しあわせの村「たんぼぼの家」で売店開設～9年3月まで
5			9	短期入所移送サービス「やまびこ号」運営事業開始～10年3月まで
成		7	1	阪神淡路大震災発生
		7	2	震災緊急号外(父母の会ニュース)発行・8年3月にも発行
		7	5	第1回初夏のバザー開始(西部いこいの家)
		7	6	本部・事務局が東部いこいの家に移転(心障センター補修工事のため)
		7	7	30周年総会および震災の励まし会を開催(木材会館)
		7	11	本部・事務局は中部いこいの家に戻る(心障センター補修工事終了のため)
		10	12	重度心身障害児(者)「いこいの館」須磨寺町に開設
		11	4	小規模作業所「じゅうしん須磨寺」開所
		13	10	しあわせの村「にこにこハウス」開所(市への積極的な運動を展開して)
		13	11	地域啓発 講演と映画「えんとこ」上映
14	11	地域啓発 映画「びぐれっと」上映		
池田 希美枝 (16～26)	15	11	第1回じゅうしんフェスタ開催	
	16	11	ポニー教室30周年式典をタワーサイドホテルで開催	
	17	4	相談窓口 開設	
	18	5	会創立40周年記念総会・懇親会を心身障害福祉センターで開催	
	21	4	NPO法人「じゅうしん神戸」設立に伴い、「じゅうしん須磨寺」の運営を移管	
武田 純子 (26～)	22	9	「じゅうしん須磨寺」小規模作業所から生活介護事業に移行	
	23	4	「じゅうしん須磨寺」須磨寺参道沿いに新館完成	
	26	11	ポニー教室40周年記念会を心身障害福祉センターで開催	
	29	3	中部いこいの家を神戸市立総合福祉センターへ移転	
	29	5	会創立50周年記念総会・祝賀会を楠公会館で開催	
	31	2	ホームページ完成	

「いこいの家」は障害者及びその家族が移動や介護の合間にほっと一息つく場所として開設。当初は「昼間一時保護」を実施していたが、後に神戸市の事業として引継がれ、その後東部・中部・西部在宅障害者福祉センターへ移管。そのため当会の昼間一時保護事業は閉鎖された。

新入会員と一緒に話す会に寄せて

令和元年10月29日(火)総合福祉センター4階会議室で、『新会員と一緒に話す会』が開かれました。仕事を持って行事に参加しにくい若い会員(主にお母さん)に「じゅうしん父母の会」を知ってもらい、そして会長はじめ理事会のメンバーが若いお母さん達の状況や意見・要望を聞く機会が必要と考えたからです。

自己紹介をはじめ、たくさん意見を聞いた中から原稿をお願いしました。

東灘支部 服部さやか

青陽東養護学校を卒業し、社会人1年目です。通所施設には親の会がなく、情報もすっかりなくなりました。小2の時に初めて入会し直ぐ退会したのですが、出戻り再入会させて頂きました。

息子は、歩くことができるが、喋れない。一人で行動できない。「できない」ことだけです。学校生活を卒業しても相変わらず日々学習です。19年付き合っても親は様々な事で戸惑うばかりです。幾つになってもチャレンジが必要で、今後の卒業後の長い人生、どのように楽しんで過ごすのが課題です。

またお世話になりますが、どうぞよろしく願いいたします。

みなとがわホールを見学

3月1日(日)に予定の第48回『愛のチャリティーバザー』の新会場を確認する為、12月定例理事会は兵庫区役所新庁舎みなとがわホールを借り、各支部役員を含め拡大理事会としました。

その場で借りられる机を並べ、会場の感覚を試しました。面積は兵庫公会堂とほぼ同じという説明でしたが、ステージ裏が広く取られているようです。ホール後方に収納式客席のスペースがとられていて少し狭いように感じました。

入口から見ると奥深い会場から横長の会場になります。兵庫区役所として使われ始めてまだ5ヶ月程。

傷一つつけないよう気を付けたいと相談しています。



兵庫区役所新庁舎

じゅうしん神戸・じゅうしん須磨寺 ～写真で見る2019年～

1～3月



2月: 節分



2月:
クッキング



2月: 木工



3月: 梅花祭(網敷天満宮)

3月: 喫茶外出



4～6月



4月: 花見(須磨寺)



3・4月: 恐竜フェア



5・6月: グループ外出



6月: ハグ+展

7～9月



8月: ミニコンサート



8月: 運動会



9月: グリーンリーフ高倉音楽交流会

10～12月



10月: ハロウィン



10月: 日帰り旅行(海遊館)



12月: クリスマス会



◇「じゅうしん神戸」「じゅうしん須磨寺」を支えてください◇

◎会員として支える(正会員5,000円・賛助会員2,000円) ◎ボランティアとして支える など

郵便振替口座: 00990-7-254520 加入者名: 特定非営利活動法人じゅうしん神戸

◆◆◆お知らせ◆◆◆

・『第54回 じゅうしん父母の会総会』

日時：5月22日(金) 午前10時30分～

会場：神戸市立総合福祉センター 4階 障害者福祉センター会議室

◆◆◆会員の動き◆◆◆

【お願い】書き損じの官製はがきを「じゅうしん父母の会」へ提供してください。

第48回 愛のチャリティーバザー

令和2年

3/1 (日)
10時～15時

みなとがわホール

(兵庫区役所新庁舎2階)

市営地下鉄湊川駅・神戸電鉄湊川駅北側すぐ

新庁舎です！！

本格的な冬の寒さと同時に息子が2度の入退院を繰り返しました。

入院中の息子の付き添いを優先させてもらったので今回の機関紙はSさんとYさんに全部お任せしてしまうことになりました。毎回大きな役割をしてる訳でもないのですが200回記念に携わることが出来ず申し訳なく残念でもありました。

しかしながら行動力のある新会員の方々の入会もあり、これからの神戸の障害福祉の問題点を改善すべく動き出そうとして頼もしい限りです。

そして忘れてはならないのは父母の会の基礎を築いてこられた先輩方の奮闘です。

私は神戸に引っ越してきてこの会がなければ孤独に障害児育児をしていたと思います。今も一人でかかえこんでいる保護者の方にこの会の存在を知っていただいて拠り所となることが出来るよう関わっていこうと思っています。

広報部 H



編集後記

今回200号発行を記念して、業者に依頼してフルカラーで印刷しています。

昨年はホームページ作りをし、今回はフルカラー印刷と新しく経験することばかりでした。

多くの方々に原稿を寄せていただいたことを十分活かせた、読みやすい紙面になっているでしょうか。父母の会ニュースが継続できますよう努力いたしますので、ご協力お願い申し上げます。